

▶ 横浜ワールドポーターズ・新港地区活性化に向けた 学生視点の導入

提案者 ▶ 株式会社 横浜インポートマート（YIM）

研究者 ▶ 国際総合科学部 経営科学系 教授 中條祐介

地域課題

横浜市の関連施設である横浜ワールドポーターズ（以下YWP）および新港地区の活性化を図る。

課題解決の方法

本プロジェクトで取り組む課題を1.新港地区の広報、2.独自イベントづくりとし、ゼミ生で班を組成する。広報班は、先進的な事例分析からリスク管理までを整理するとともに、それらを踏まえたYWP×YCU版のSNSを活用した実証実験を行う。また、学生で運営可能なSNSのみならず、公の媒体に対する情報のリリースを通して得られる効果を実験的に計測する。イベントづくり班では長期的な視点と短期的な視点から検討を行う。長期的な視点として、新港地区における地域課題の解決プロジェクトを推進する。この点については、行政、市民等からの意見収集や利害調整が必要となるため、一年間の視点で取り組んでいく。また、短期的な視点として、地域課題と絡めた独自イベントの企画によるイベントスペース活用案の提示及び実行を進める。

実施内容

- 4月～1月 YIMとゼミ生代表の打合せ（月1回）
- 4月～2月 SNS運営（Twitter、Facebook）
- 5月 アンケート作成・収集「新港地区課題について」（対象：学生、保護者70名）
- 6月 課題解決に向けた企画提案
- 7月 企画実現に向け、外部団体「MM21」と協議
- 8月 ゼミ生全員が新港地区に出向き、街の魅力を探求し、結果をFacebookで紹介
- 9月 クリスマスイベント・新港地区パンフレットの作成に向けて活動を開始
- 10～11月 モザイクアート写真撮影（1,296枚）。ゼミ生が英語により外国人入店客へのサポート活動を実施
- 12月 クリスマス独自イベントの実施、「環境未来都市ワークショップ」で活動発表、外部団体「I LOVE YOKOHAMA」と交流、キャンドルナイトイベントへの参加
- 1月 神奈川新聞・東京新聞・大学ホームページに記事を掲載、モザイクアートの展示、新港地区紹介パンフレットを完成・各施設に配布
- 2月 年度末報告会をYWPで実施、YIM取締役への課題提起

成果・効果

1. 街の魅力発見
街の課題把握のため、学生を対象にアンケートを行うとともに、他団体との交流を行った。
2. イベントの事業性の検証
クリスマスイベントで新たに収益獲得を目指して活動を行い、施設での需要把握と効果測定を行いつつ、街を訪れた人に思い出を提供した。その結果、事業性が検証され、また、横浜ワールドポーターズの主力顧客セグメントである若者カップルよりも、ファミリーセグメントの方が思い出づくりに対して積極的に支出することが明らかとなった。
3. 街紹介のパンフレット作成
アンケートで収集した街の課題解決に向けて、街紹介のパンフレットを作成した。その結果、市大以外の大学や公共施設でも配布することができ、300部配布しきること、街に人を誘導できた。
4. モザイクアートの制作・展示
3年目となるモザイクアート制作では、過年度の課題であった他の活動との連携を達成するために、クリスマス活動やキャンドルナイトイベントでも撮影を行った（計1,296枚）。このモザイクアートの広報活動において新聞社へのプレスリリースを行い、2社に記事として掲載されたことで、多くの人に新港地区を広報できた。
5. 報告会の実施
上記の活動を通して把握できた街・施設の課題と解決案を、年度末報告会でYWPの取締役へ報告した。過年度に達成できなかった課題である活動の連携や効果測定、プレスリリースといった副目標も達成することができ、効果的に街の活性化に貢献できた。

今後の課題と展開

- ・本プロジェクトを通して把握することが出来た、新構築における歴史的建造物の有効活用
- ・顧客セグメントのうち、成長傾向にあるファミリー層に対する顧客満足度向上策の構想
- ・横浜市を含めた関連機関、外部団体との協力拡大
- ・YWPと協力しての独自商品開発と、コトづくりによる新港地区の活性化・魅力発信

